

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 8 月 11 日 (2005.8.11)

【公開番号】特開 2001-188175 (P2001-188175A)
 【公開日】平成 13 年 7 月 10 日 (2001.7.10)
 【出願番号】特願 2000-427 (P2000-427)
 【国際特許分類第 7 版】

G 0 2 B 21/20

G 0 2 B 7/02

G 0 2 B 7/04

G 0 2 B 7/08

【 F I 】

G 0 2 B 21/20

G 0 2 B 7/02 C

G 0 2 B 7/08 C

G 0 2 B 7/04 D

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 1 月 26 日 (2005.1.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

水平面に対する接眼レンズの光軸の角度を変更する鏡筒角変更手段と、顕微鏡で形成された観察像を前記接眼レンズで観察可能に導光する鏡筒光学系と、前記接眼レンズを保持する接眼レンズ保持部と、前記接眼レンズ保持部と前記鏡筒角変更手段との距離を伸縮する伸縮手段とを有する顕微鏡用鏡筒において、前記鏡筒角変更手段と前記伸縮手段とを連動させる連動手段を設けたことを特徴とする顕微鏡用鏡筒。

【請求項 2】

前記連動手段の有効と無効とを切り替える切替手段を設けたことを特徴とする請求項 1 記載の顕微鏡用鏡筒。

【請求項 3】

前記鏡筒光学系は、前記鏡筒角変更手段の出射側に設けた平行光形成レンズと、前記接眼レンズ保持部の入射側に設けた結像レンズとを有し、前記伸縮手段は、前記平行光形成レンズと前記結像レンズの間の距離を伸縮するように構成したことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の顕微鏡用鏡筒。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するために、請求項 1 に係る発明は、水平面に対する接眼レンズの光軸の角度を変更する鏡筒角変更手段と、顕微鏡で形成された観察像を前記接眼レンズで観察可能に導光する鏡筒光学系と、前記接眼レンズを保持する

接眼レンズ保持部と、前記接眼レンズ保持部と前記鏡筒角変更手段との距離を伸縮する伸縮手段とを有する顕微鏡用鏡筒において、前記鏡筒角変更手段と前記伸縮手段とを連動させる連動手段を設けた。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

請求項 1 に係る発明の顕微鏡用鏡筒では、鏡筒角変更手段と伸縮手段とを連動させる連動手段を設けたことにより、検鏡者が鏡筒角を調節するために鏡筒角変更手段を作動させると、これに連動して伸縮手段が作動し、接眼レンズ保持部が移動してアイポイントの遠さを所定の範囲に保持する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項 2 に係る発明の顕微鏡用鏡筒では、上記作用に加え、連動手段の有効と無効とを切り替える切替手段を設けたことにより、鏡筒角の調節と接眼レンズ保持部の伸縮とを連動させる場合と、個別に調節する場合とを選択できる。

また、請求項 3 に係る発明の顕微鏡用鏡筒では、上記作用に加え、伸縮手段の構成を平行光形成レンズと結像レンズの間の距離を伸縮するように構成したことにより、検鏡者が鏡筒角を調節するために鏡筒角変更手段を作動させるても観察像が変化することはない。